

GREEN RADAR

Vol.501
2021

2

Contents

A-Policy【重点事業方針】

- ・令和2年度 生産振興業務の取組みについて
- ・令和2年度 きのか課中期事業計画の推進状況
- ・包装資材コスト抑制の取組み

A-Reports

・長野米取引懇談会	6	・古往今来	9
・長野県産えのきたけと宮崎県産ピーマンと一緒に陳列	6	・今月のおすすめレシピ	10
・JAビルで県産花きを展示PR	7	・JA全農長野の事業現況	10
・JR松本駅で松本産アルストロメリアを展示	7	・2月のラジオ番組表	10
・大阪の保育園で食育授業	8	・編集後記	10



生産振興部

令和2年度 生産振興業務の取組みについて

J A全農長野生産振興部では今年度、野菜・果樹の振興を軸に次の項目について重点的に事業を進めて参りました。

1. 生産振興（重点品目の推進）果菜類（ミニトマト・ピーマン）、加工業務向け野菜、りんご
2. 生産安定への取組み
- ①施設化の推進

- ②災害に強い施設資材等の推進（りんご高密度植わい化栽培）
3. 生産拡大への取組み

- ①機械化の導入

- ②スマート農業の情報収集と本県に活用できる情報の発信

これらの具体的な取組内容について報告いたします。

◆果菜類の取組み（ミニトマト・ピーマン）

需要の高いミニトマトですが、夏場の草勢維持管理が難しく秋口の収穫量減少が課題でした。そこで、昨年度よりJ A佐久浅間管内で秋口の集荷量確

保を目的に、接木苗による試験栽培を進めて参りました。結果的には、11月までの栽培期間では苗代を含めても自根苗より接木苗の方が増収になる事が確認できました。昨年度の試験結果を受け、本年度は3地区5圃場での拡大試験を行い、立毛品評会や生産者大会の開催により情報発信も併せて行いました。2年間の結果を基に、他の地域にも提案し、生産拡大に取り組んでいきます。

夏秋ピーマンは反収増を目指し、灌水と整枝による収量試験を行いました。その結果、慣行よりも一株当たり140%増収が確認できました。同時に果形の大型比率も向上した事が確認できました。試験結果を踏まえ、次年度は取組みの拡大を進めます。

秋口の安定供給の要望が高い夏秋きゅうりは、本会販売部門と連携して荷造り作業を軽減した出荷規格を設定し、取引を進めて参りました。特に、

◆業務向け野菜（きゅうり）

秋口の安定供給の要望が高い夏秋きゅうりは、本会販売部門と連携して荷造り作業を軽減した出荷規格を設定し、取引を進めて参りました。特に、

きのこの夏場の適正生産に向けた対策として、きのこ生産者にも推進し、供給実績は前年比153%増の192トンとなり前年を上回る113%増の伸びとなりました。次年度は、今年度の実績も踏まえながら、需要に即した生産体制の構築を進めて参ります。

◆スマート農業への取組み

AーヨーTなど最先端技術を取り入れたスマート農業が注目され、日進月歩で技術情報が発信されています。生産振興部では、昨年度より「スマート農業レポート」をおとしてスマート農業の情報収集と発信を行っています。また、今年度は機器の取得や実演によるデータの蓄積も行いました。

- ①農業用ドローンの取得・実証・実演

自動運航が可能な最新機種「T20K」（フボタ）を国内第1号として取得し、実証や

デモフライトを重ねてきました。運航は、講習を修了した本会職員4名（米穀課・生産資材課・農業機械課・生産振興課）が対応し、現地圃場にて延べ20回を超えるフライトを行いました。ドローンによる農薬散布時間は1ヘクタールあたり10分程度と、



ドローン運航の様子(飯綱にて)

従来の動噴による地上散布と比較すると作業時間は4分の1から5分の1に短縮されます。また、水田に入らずに作業ができるため労力の軽減にもつながることから、従来の作業と比較して省力化につながることが確認できました。今年度は液剤散布のみでしたが、粒剤散布も可能なため、水稻・大豆以外の運用も検討しながら実証や実演に取り組んでいきます。



キャベツ収穫機

②キャベツ収穫機の実証（スマート農業コンソーシアム参加）
農水省の「令和2年度労働力不足の解消に向けたスマート農業実証事業」に公募し「中山間地域におけるキャベツ収穫機械化体系の実証」として、令和2年6月に事業採択を受けました。（株）グリーンフィールド（J A佐久浅間子会社）軽井沢圃場にて、

J A・県・農機メーカー・教育機関等と連携し、実証試験を行いました。収穫機を導入する事で、目標の収穫労力2割削減を達成しました。また、枕地を確保する事で、収穫機を効率的に動かすことができ、収穫労力の更なる削減も可能な事が確認できました。収量と作業効率の両面を考慮した作付けを検討し、バランスの取れた作付け体系を構築して参ります。

◆災害に強い施設への取組み

りんご高密度植わい化栽培において、トレリスの強化による風害・雹害等の気象変動にも強い施設化を目指し、（株）高見澤と連携してコンクリート製トレリスの設置を昨年度より進めてきま



コンクリート混合トレリス

した。今年度は、1号機の改良版と鋼管との混合による施工方法で、17アールに7列9本（計63本、内コンクリート製39本）のトレリス2号機を設置し、

今年度内に3号機の設置も予定しています。今後も同社と連携し、改良や改善を進めながら、普及を目指して取り組んで参ります。

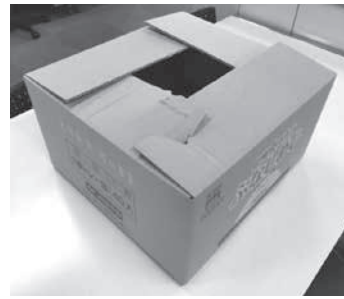
包装資材課

包装資材コスト抑制の取組み

J A全農長野包装資材課は、販売部署と連携した積極的な規格の見直し提案、適正包装の推進によるコスト抑制と標準パレットサイズに適合した出荷資材の規格検討・開発による効率的な青果物輸送を進めることを重点方針として事業に取り組みました。

【段ボールの規格見直しおよび適性包装の推進】

高止まりする段ボール価格の抑制のため、規格の見直し提案・検討を継続して進めました。結果として、果実でりんご・贈答用・桃において他産地規格への変更、野菜では同一J A内で玉ねぎの材質



ショートフラップ(例)

統合などの規格集約を行いました。段ボールの価格構成にお

いては、使用される原紙代の影響が大きく、その使用面積(才数)により価格が上下します。通常の段ボールでは、天面(フラップ)はピッタリ閉じるように設計されていますが、これを短くすること(ショートフラップ)によって才数を削減し、コストを抑制することができま

す。本年度においても、野菜で白ねぎ・パプリカ・スイートコーン・キャベツ・グリーンボール・パセリなど、きのこでは昨年に続きぶなしめじの合計8規格をショートフラップ化(幅の拡大含む)しました。

ぶどう現行品



ぶどう試験品(ストロングコンテナ)

規格行いました。その他として、全国的に見て使用量の少ない白原紙2規格を主要原紙へ切り替え集約し、段ボール製造コストアップ要因の改善にも取り組みました。

【標準パレットサイズに適合した出荷資材の規格検討】

物流の担い手であるドライバーの人員不足は深刻で、その労働条件や労働環境の改善が不可欠となっています。青果物輸送においては、現在も手荷役(手積み・手降し)による配送が行われている部分がありドライバーにとって長時間の重労働となっています。この課題を解決する方策として、パレットの活用が上げられます。本年度もパレット輸送による効率的な青果物輸送に向け販売部署と連携した出荷資材の規格検討を継続的に行い、荷造り・輸送試験等を果実(ぶどう・りんご)・野菜(ブロッコリー・ピーマンほか)・きのこ(ぶなしめじ)などで実施しました。ぶどうでは5kgバラ段ボールにおいて、才数を削減した「ストロングコンテナ(ストロン)」を開発・提案し、試験を実施しました。結果は、箱強度に問題はないものの作業性に課題があり継続検討となっています。



シャインマスカット輸送試験

一層の消費拡大に向けて連携と協力

長野米取引懇談会

J A全農長野と長野米主産地J Aで構成する食糧専門委員会は12月15日(火)、長野市のJ Aビルで、令和2年度長野米取引懇談会を開催しました。長野県内の取引先である米卸のベイクックコーポレーション(株)とマイパール長野と懇談しました。

全農長野の岡村達雄副本部長が「生産者の所得増大に向け、J Aと全農長野が一体となって集荷・販売の事業体制を構築し、年間をとしてお互いが納得できる取引ができるように進めたい。長野米に対する評価・要望などのご提言をいただきました」と挨拶しました。

また、全農長野米穀課の北澤治樹課長からは、直近の情勢として「12月9日公表の長野県作況指数が99で確定し、主食用米の生産量が前年産に比べ5・600トン減少の見込み。長野米の11月末時点の集荷見込み数量も、梅雨の日照不足の影響により前年産集荷数量比で95%となる」との説明がありました。

両社は「長野米の品質は安定している」と評価している。



挨拶をする岡村副本部長

「消費者、売り場から選ばれ、今後の品種構成と価格戦略を検討してほしい」「関係者が一丸となった長野米のPRをさらに強化していきたい」など前向きな発言が多く、活発な意見交換が行われました。

今後長野県内をはじめ各地の米卸・J A・全農長野が一体となり、一層の消費拡大に向けて生産・販売両面で連携、協力していくことを確認しました。

保健機能食品で連携

長野県産えのきたけと宮崎県産ピーマンを一緒に陳列

J A全農長野東京販売事務所は、消費者の健康志向の高まりに対応した販売策として、J A宮崎経済連と連携し、全国のデパートなどに出店する青果専門店「九州屋」の東京都や神奈川県などの8店舗で、11月27日(金)から12月12日(土)まで保健機能食品フェアを開きました。保健機能食品の認知度向上を目指し、長野県産えのきたけと宮崎県産ピーマンを一緒に陳列し、産地をまたいだ販促活動のモデルとして企画しました。

全農長野では、機能性表示食品「長野県J A産えのきたけ(GABA)」をはじめとして、栄養・機能性による高付加価値商品の開発や消費者への訴求に取り組んでいます。今回のフェアもその一環で、保健機能食品という特徴を生かした二つの産地共通のコンセプトによる、全国でも珍しい売り場展開です。

店頭では、「長野県J A産えのきたけ」と「宮崎県J A産ピーマン」を一緒に陳列され、POPも使ってPR。野菜ソムリエの資格を持つ販売員が、買い物客に栄養機能を説明し、えのきたけとピーマンを使ったおすすめレシピを紹介しました。



保健機能食品のえのきたけとピーマンと一緒に販売する販売員

東京販売事務所

米穀課

JAビルで県産花きを展示PR

JA全農長野野菜花き課では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて販売が低迷している長野県産花きのPRを目的に、9月下旬から隔週で計7回、JA長野県ビル13階の食堂「しなの木」入口で県産花きのアレンジメントを展示しました。



ダリア（黒蝶）とストック

ダリアを中心にアルストロメリアやカーネーション、ストック等、期間中に出荷されている花を使い、中でもダリアは様々な咲き方（花型）や色があるため、「黒蝶」「朝日てまり」「ミッチャン」など毎回品種を変え、品種名をPOPで紹介しました。食堂は1日に約150名の利用の利用があり、ビル内に勤務する各連合会職員は



ダリア（オレンジストーン）とアルストロメリア

もちろん、ビルの会議室利用者や近隣の会社員も訪れます。中には毎回スマートフォン等

で写真撮影をしているという方もいらっしゃいました。一部地域への緊急事態宣言発出やイベント自粛により、花きの販売環境は厳しい状況が続きますが、従来の販促に加え、PRにより新たな需要機会の創出を目指したいと考えています。



ダリア（朝日てまり）とシンフォリカルポス

JR松本駅で松本産アルストロメリアを展示

JA全農長野中信事業所生産販売課は、JR東日本とJA松本ハイルランド花き部会の協力をいただき、年末年始にJR松本駅改札内で松本産アルストロメリアを展示しました。同駅改札内での展示は夏に続いて2回目。地元産の花きを知ってもらい、家で過ごすことが多い今年の年末年始にご家庭で



POPでアルストロメリアの品種を紹介



アルストロメリアを使った正月らしいアレンジメント

も飾ってもらうことが目的です。12月14日（月）から25日（金）はアルストロメリアに品種や特徴を書いたPOPを付けて展示し、28日（月）から1月6日（水）は240本のアルストロメリアを中心に松や千両、金色に染めた柳などを添えた正月らしいフラワーアレンジメントを展示しました。

駅の利用者から「お花があると心が和みますね」「松本がお花の生産地ということを知り、喜ばれました」などの感想をいただき、喜ばれました。

大阪の保育園で食育授業

「リンゴときのこ、味覚が育つ時期においしさを教えて」

りんごの食育

12月8日（火）に高槻市の（福）照治福祉会が運営する保育施設5カ所で、約700名の園児を対象に行いました。

園児は、リンゴに触れたり匂いを嗅いでみたりと興味津々で、給食やおやつに提供されたサンふじは「おいしかった」「ありがとう」というお礼の手紙を園児からいただきました。また、家庭でも長野県のリンゴを知ってもらえるように持ち帰り用に「りんごが出来るまで」のパンフレットとサンふじ1玉を配布しました。保護者から「このリンゴはどうすれば買えるのか」と園に問い合わせがあったほど好評でした。



きのこの食育

12月17日（木）、茨木市の（福）山善福祉会が運営する鮎川保育園、おとのは学園、ときのはこども園の3カ所で、295名の園児を対象に行いました。

園児は、きのこの名前を学んだり直接触れた後、キッチンバサミで食べやすい大きさにカットし、職員が塩味とバター醤油味で炒めました。はじめは「苦手」と顔をしかめていた園児も、目の前で調理したきのこの香りや調味料を加えたときの音、湯気に興味を示し、出来立てを食べると「おいしい」「おかわり」の声が上がりました。

園児は、お迎えに来た保護者にお土産のきのこセットを渡しながら「きのこがおいしかった」「家でもバター醤油味で食べたい」とリクエストし、保護者は「きのこはそれほど好きじゃないはずなんやけど」と驚き、喜んでいました。

おとのは学園



エリンギをキッチンバサミでカット



鮎川保育園



味のちがいをわかるかな



ときのはこども園



ぶなしめじはすぐ折れるよ



JA全農長野大阪販売事務所は、子供のころからおいしさを知り、長野県産のファンになってもらうとうと大阪府内の保育施設で食育授業を行いました。新型コロナウイルス

ルスの感染予防に配慮し、全農長野の職員は参加せず、説明用の資料等を提供して園の先生に説明をしていただきました。

JA全農長野の事業現況▶

令和2年度12月末部門別実績表

(単位：百万円、%)

部門	区分	実 績	計画比	前年比
野菜種苗センター		133	83	93
生産振興部計		133	83	93
米	穀	13,979	95	97
果	実	36,991	107	111
野菜花き		58,217	89	101
きのこ		14,799	93	104
営	業	12,672	96	114
生産販売部計		136,659	95	104
包装資材		6,812	91	97
生産資材		7,986	94	96
農業機械		7,053	121	129
施設住宅		3,246	118	61
生産購買部計		25,098	103	96
畜産		9,510	93	93
三岳牧場		194	85	74
SPF繁殖センター		231	101	99
酪農		13,778	101	100
八ヶ岳牧場		178	89	94
畜産酪農部計		23,891	97	97
燃料・ホームエネルギー		15,570	78	84
SS協同経営		5,894	87	71
生活	活	7,168	85	80
生活部計		28,632	81	80
長野県本部計		214,413	94	98

(内部販売高含む)

2月のラジオ番組表▶

放送日時	放送局	番組名	放送内容（予定）
2/24 (水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえがりでい内 「暮らしの応援団」	生活課
毎週火曜日 16:10	SBC ラジオ	情報わんさかGO!GO! ワイドら☆キャン内 「ミルクマガジン」	信州の牛乳・乳製品 に関する様々な情報 をお届け。リスナー プレゼントもあります。

先日松本山雅FCの新体制発表会が
まつもと市民芸術館にて開催されました
例年ですとファン・サポーターなど約
2千人が参加するイベントですが、本年
度はコロナ禍によりWEB配信と寂しい
限りです。監督も代わり新戦力加入によ
り巻き返しをはかる一年となります。今
シーズンのスローガンは「One
Soul 新心・進」。「One Soul」
は山雅を象徴するキーワード、「新たな
One Soul」を築き、大きな飛躍を
目指し「前に進んで」いきたいとのメッ
セージです。開幕戦は2月28日に敵地で
レノファ山口と、ホーム開幕戦は3月14
日にモンテディオ山形と対戦します。1
年間の熱い戦いが始まります、精一杯応
援していきましょう！

(Y)

$$\overline{Y}$$

／ 今月のおすすめレシピ ／
えのき牛乳茶碗蒸し

平成24年度牛乳・乳製品利用料理コンクール県大会
最優秀賞受賞レシピ



■材料 (4人分)

牛乳	200ml
えのきたけ	100g
万能ねぎ	4本
卵	2個
えのき氷	3個
A しょう油	小さじ1/2
ごま油	小さじ1
B 鶏ガラスープの素	小さじ1/2
塩	小さじ1/3

■作り方

- ① えのきたけは、根本を切り落として2cmの長さに切る。
万能ねぎは、小口切にする。Aで下味をつける。
- ② 卵は割りほぐし、牛乳とBを混ぜて濾す。えのき氷を
解凍して加え混ぜる。
- ③ 器に①を4等分して入れ、②を注ぐ。
- ④ 鍋に器の半分位の高さのお湯を沸かし、器を入れる。
蓋にぬらした布巾を挟み、蓋を少しずらして弱火で 10
分蒸したら出来上がり。

ワンポイント
アドバイス

- ・牛乳を使った茶碗蒸しです。
- ・きのこを使うことでいつもと違う味を楽しめます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まりません。第2回目の緊急事態宣言が1月8日から2月7日までの一か月間、首都圏1都3県へ発出されました。その後追加の発出により1月18日現在合計11都府県に緊急事態措置が取られています。県内においても1日の感染者数が前月の2倍以上に増加し、病床使用率が60%を超えるなど、医療体制のひっ迫が懸念されるとして1月14日に「医療非常事態宣言」が出され、より身近に感じるものとなってきています。新たな生活様式の実践とより一層の感染防止対策の徹底にご協力をお願いします。

経済連情報の前進「長野購連通信」と「長野経済連通信」のご紹介

長野購連通信の
發刊に寄す



長野縣購連會長
黑田新一郎

[illegible]

▲S25.4.25
長野購連通信 第1号発刊



▲S25.10.5
長野経済連通信 創刊

經濟連發足の御挨拶



長野縣經濟農業協同
組合連合會
會長松沢佐重郎

[illegible][illegible]

「長野県本部情報」（愛称…グリーンリーダー）は、昭和46年5月の創刊（創刊当時は「経済連情報」）から前号で500号を超えました。これから1年間にわたり、JJA全農長野のあゆみを過去の誌面からご紹介します。

次号は、1973年（昭和48年）の経済連通信創刊号と同年の10大ニュースを掲載します



▲S33.4.15 長野経済連通信 休刊(272号)



ながの★ゲンキ
 みらい☆ミカタ
 JA全農長野



× Chef. D.

まるっとおいしく!

信州*きのこ
 キャンペーン

中国料理「美虎」オーナーシェフ

五十嵐 美幸さんの
 おすすめ簡単レシピ!

ふわふわ卵の
 きのこ挽き肉
 あんかけ

春もお役立ち♪

信州きのこを買ってキャンペーンに参加!

信州三ツ山マーク  を
 5枚集めて応募しよう!!

応募
 締切

2021年
 3月5日(金)
 (当日消印有効)

A 賞

20名様



信州アルプス牛モモ
 しゃぶしゃぶ用300g×2

B 賞

20名様



信州りんごジュース 5種セレクト
 長野興農(株)

C 賞

20名様



長野県JA産
 きのこセット



& オリジナルQUOカード
 500円分

応募方法 & ハガキダウンロード

まるっとおいしいレシピはキャンペーンWebサイトに掲載中!

長野県産きのこキャンペーン

検 索

今すぐアクセス!



光と風と水のハーモニー

JA全農長野

JA 全農長野ホームページ..... <https://www.nn.zennoh.or.jp>

インターネットで産地直送「JA タウン」..... <https://www.ja-town.com>

